

🐣 今学期初めての月曜朝礼です。放送の設備が変わりました。私の声は聞こえていますか？ 突然ですが、今使われている五千円札の女性の名前を知っている人はいますか。知っている人がいたとしても、何をなさった方か知っている人は少ないでしょう。五千円札に印刷されている女性は、「津田梅子」と言います。



ひとつ前の五千円札に印刷されていたのは「樋口一葉」さん。その前の五千円札は「新渡戸稲造」さん。津田さんも樋口さんも新渡戸さんも、立教小学校の本棚のどこかにそれぞれの伝記や作品が置かれているはず。興味のある人は、探してみてください。

さて、津田梅子さんです。明治の頃「岩倉使節団」が、アメリカに渡ります。団長は岩倉具視さん。昔の五百円札に出ていた人です。その岩倉使節団の中に、日本初の女子留学生五人が含まれていました。津田さんはその中の最年少、なんと六歳でした。アメリカで一年過ごすうちに、日本語はほとんど忘れてしまったようです。

津田さんはキリスト教の洗礼を受け、日本に帰った後、女学校の先生になります。それ

に力を貸したのが、日本初の内閣総理大臣。六年生でピンと来た人はいませんか。そう、「伊藤博文」さんです。（ちなみに昔の千円札の方です。）伊藤さんは津田さんを女学校の先生として雇い、国の役人の地位も与えます。津田さんは当時の先生の給料の七倍の給料をもらっていたそうです。その後、またアメリカのプリンマー大学に留学。帰国後の一九〇〇年九月十四日、つまり今日、「女子英学塾」という塾を始めました。生徒は女性のみ十名。

今から一二六年前に英語の塾を始めた津田さん。その二十六年前の一八七四年に同じく男性だけの英語塾を開いたのがウィリアムズ主教。なんだか似ていますね。

津田さんは「教室は静かにノートをとる場所ではなくて、自分の意見を述べて、時には先生と意見を交える場でもある。」とか、「英語を通して世界に目を向けられる人間になると同時に、英語のみに熱中せず、オールラウンド・ウーマン（広い視野を持つ『完き婦人』）であれ。」と、おっしゃっていたそうです。

津田さんの開いた塾が、「津田塾大学」として今も続いています。津田さんは、学生の主体性を重んじたという思いから、校歌も校章も校旗も作らなかったそうです。

「主体性」というのは、自分たちの頭で考

え、主張し、前へそして良い方向に進んでいく力のことです。

先週、トイレの手洗い場の下の物入れの扉が外れることが続出したそうです。手を洗おうと水道に近づくと、足が当たり、外れて足に扉が落ちてくる危険があるということ。先生たちが話し合いをして、その扉をいったん外しました。今は固定されています。その様子を見て、正直私は複雑な思いでいました。君たちはそんなにヤワじゃない。扉が外れやすいと言えはわかるし、気をつけることも、外れたら上級生なら当然はめることもできる。君たちが自分たちで工夫して、危険を避ける方法を考え出す力も持っていると思っていますから。

今後の生活の中で、一定の遊び場だけに行列ができていたりとか、不便なこと、困ったことに気がついた場合は、先生たちにすぐに相談してください。児童会や委員会の人たちが知恵を出し合って何か方策を考えてくれることも有難いです。

もちろん、君たちの命にかかわるような危険なことがあった場合、先生たちは全力で君たちを守り続けます。それ以外では、津田梅子さんのお考えのように、君たち自身が主体となつて、学校生活をより良くしていく方法を考えていくことを望んでいます。

君たちにはその力があると私は、信じています。（立教小学校校長 田代 正行）